

2026 年 9 月 15 日(火)

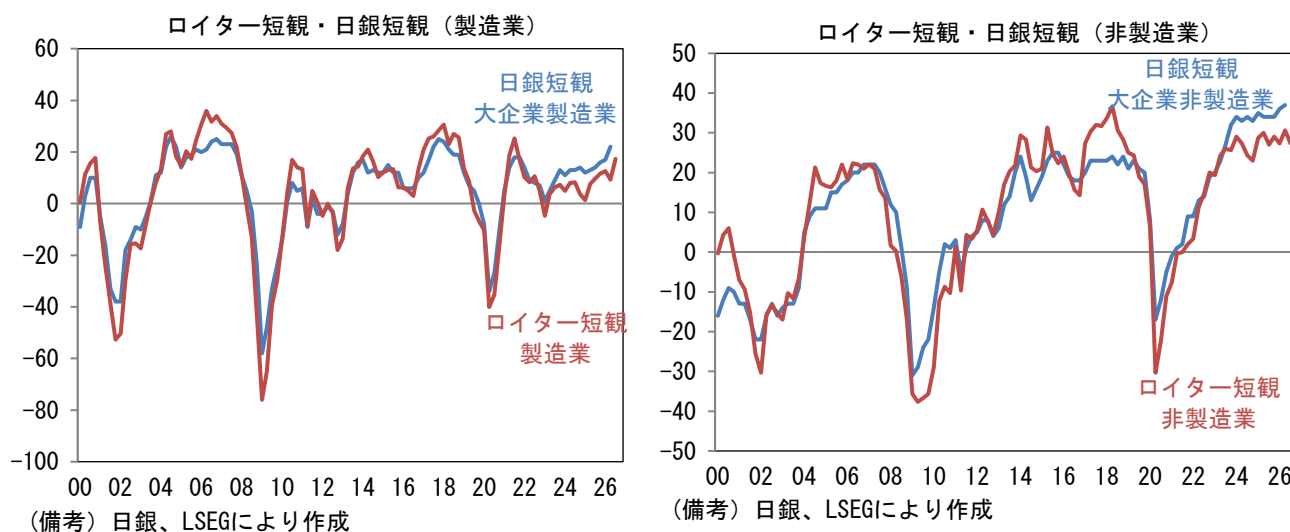
日銀短観は株式市場を勇気づける結果になろう

経済調査部主席エコノミスト 藤代宏一

(TEL : 050-5474-6123)

- ・ 日経平均株価は先行き 12 ヶ月 72,000 円程度で推移するだろう
- ・ USD/JPY は先行き 12 ヶ月 155 円程度で推移するだろう
- ・ 日銀は政策金利を 9 月に 1.25% とした後、27 年末までに 2.25% とするだろう
- ・ FED は FF 金利を、年内は 3.75% で据え置くだらう

- ・ 10 月 1 日に発表される日銀短観（9 月調査）は良好な結果が期待される。大企業製造業の業況判断 D I は、驚くほど底堅かった 6 月調査の +22 から更なる改善を遂げる可能性があり、大企業非製造業も 6 月調査の +37 近辺を維持すると期待される。
- ・ 日銀短観・業況判断 D I の先行指標として有用なロイター短観は 9 月に改善をみせた。大企業を対象とするこの調査では、製造業が +21 となり、4-6 月期平均値の +9.3 をはつきりと上回った。単月の動きをみると 7 月が +13、8 月が +18 と改善の勢いが増している。非製造業は 7 月：+25、8 月：+28、9 月：+29 と 4-6 月期平均値の +30.7 をやや下回って推移しているものの、好調な領域にある。



- ・大企業の業況判断D IはTOPIXの予想EPSと一定の連動性を有する。背景には、短観への回答に際し、多くの企業が自社の収益計画や業績見通しを判断材料としていると考えられることがある。この推察が正しければ、業況判断D Iの上昇・高止まりは、企業業績の上振れを示唆するものと捉えられる。

